

2011年3月23日

新潟県知事 泉田 裕彦 様  
柏崎市長 会田 洋 様  
刈羽村長 品田 宏夫 様

柏崎刈羽原発反対地元三団体  
原発からいのちとふるさとを守る県民の会

柏崎刈羽原発の運転停止及び福島原発大事故の対応に関する緊急申し入れ

福島原発の大事故から12日過ぎた今なお、この重大事故がどのようなになっているのか、いつ終息するのかさえ見えない深刻な事態が続いている。

原子炉の炉心及び使用済み燃料プールの冷却が進まないばかりか、原発からの放射能の被害、影響は日に日に拡大しており、的確な情報が公表されない中で国民、県民の不安は非常に大きくなっている。

私たちは、重大事故の一日も早い終息を願うものであるが、運よくかろうじて大事故に至らなかった柏崎刈羽原発の運転再開について、この4年間厳しく警告を発してきたにもかかわらず、柏崎刈羽の経験が全く生かされなかったことに強い憤りを感じている。

私たちは、3月13日付で貴職あて緊急申し入れをし、3月20日には、その後の事態を踏まえ『声明』を発出した。

しかし、その後も、野菜、牛乳等の農産物の汚染と広範囲の海洋汚染が発表されるなど海産物への影響も心配され、深刻な被害が増大しているため、再度申し入れをするものである。

## 記

- 1 貴職が3月20日付で東電に発出した「柏崎刈羽原発に関する現状の安全対策等について抜本的見直しと万全の対応をとること」を求めたことを、より具体的にするため、まず当該原発を即時停止させることを求めること
- 2 政府の原子力安全委員会の斑目春樹委員長が22日に参院予算委員会で、「(原発設計の) 想定が悪かった。想定について世界的に見直しされなければならない、原子力を推進してきた者の一人として謝罪する」と陳謝したと報じられている。

このことは、県技術委員会及びその下の二つの小委員会のこれまでの審査がずさんであったことにもつながる。

県は早急に技術委員会を開催し、これまでの助言・指導について見直し、再検討を求めること。

- 3 我々は昨日、福島原発から20kmの避難勧告が出されている地点の現状視察を行った。すでに放射線のレベルは、原発から50km圏外まで容易ならざる状態であり、原子力防災対策が根本から誤っていることが確認された。放射能等の拡散について、福島県内外の放射線モニタリングポストのデータを集約し、スピーディシステムなどの活用を図り、放射能の強さと拡がりを把握し、その予測シミュレーションを公表するとともに、県内においても妊産婦・乳幼児・児童・生徒及び40歳未満の県民へのヨウ素剤配布をはじめ万全の体制をとること

- 4 伝えられるところによれば、事故発生の早い段階で海水注入が検討されたが、東電が廃炉となることを拒んだため、事故がさらに拡大され終息の見込みもたない現状となっている。

我々は、この期に及んでもなお、東電の利益優先の姿勢を厳しく糾弾するとともにこれに追従した国（原子力安全・保安院、原子力安全委員会）及びこれに加担した学者を厳しく糾弾するものである。

これら学者を、県・市・村が関係する委員会、審議会等から除外すること。